

御神木

水掛の庭

久太郎町のひと街区の中に庭をつくる。
その中には一本の大木が育っている。

そのふもとは何かを頼う場所であり、手を合わせ、水を掛けた。

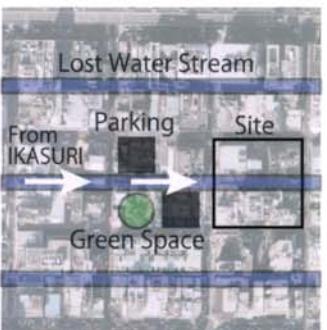
これからは仕事のこと、家族のこと、健康のこと。
思いは水に託され、木を成長させる。
そして長い年月をかけ、さらに御神木となる。

船場は生摩神とよばれる井戸の神様がまつられている。生命力、幸福と繁栄、清らかさを担う。また心斎橋には水掛け不動というものが存在する。ビルの間のその空間は静かな時間が流れており、人はそこで何かを思い、水を掛け、手を合わせる。



六指不動

敷地



大阪南船場久太郎町の一角が歴史である。ここは多種の建物が新旧入り乱れて存在しているため逛んだ。建物の存在は、近隣住人の性格を表す。

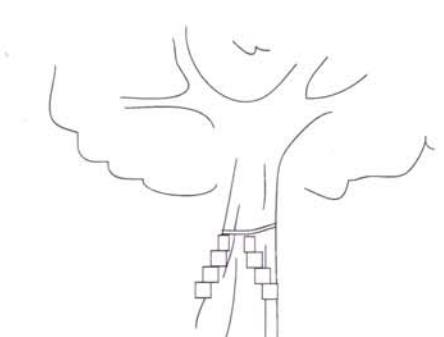
また久太郎町には生簾（いかすり）神社があり井戸の神が祀られている。生簾とはもともと居場所を守るという意味を持っていたそうだ。大阪の中心ということをあり省門前をまっかけに町が發展した

植物という大きな時間の系に乗せる

樹木は時間をかけて、その大きさを獲得する事になる。つまり、大きな木には過去からの歴史を持つ。

ここで御神木として育てる檜は成長までに約40年かかると言われている。人で言えば約一世代に当たる。

人で言えば約一世代に当たる。



僕